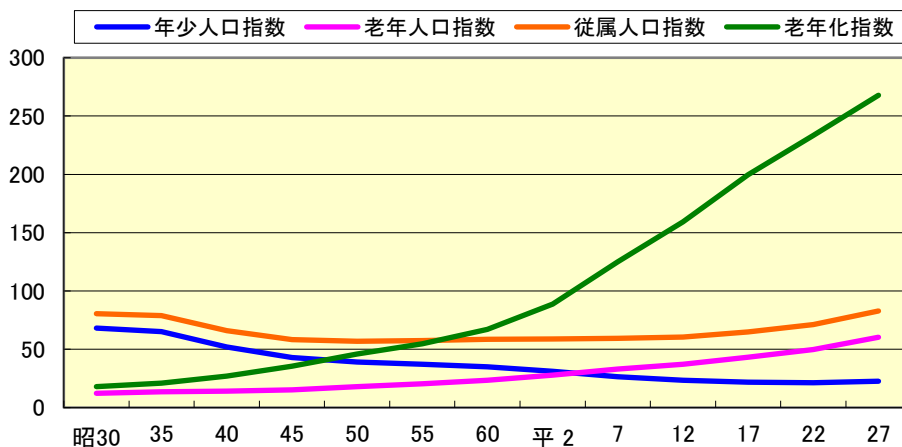


## 年齢構成指数

### 老年化指数の上昇

- ・年少人口指数は昭和30年から一貫して低下し、平成22年は過去最低の21.3となり、少子化が進行していることを示しているが、平成27年は増加した。
- ・老年人口指数は60.3へ上昇しており、1.7人の生産年齢人口で1人の高齢者を支える状況である。
- ・従属人口指数は昭和50年から平成7年まで緩やかに上昇していたが、近年は急速な上昇傾向にあり、生産年齢人口1.2人で従属人口1人を支える状況にあることを示している。
- ・老年化指数は267.8へと急上昇しており、人口の高齢化が進行している。

年齢構成指数の推移



年次	年少人口指数	老年人口指数	従属人口指数	老年化指数
昭30	68.2	12.3	80.4	18.0
35	65.1	13.6	78.7	20.9
40	52.0	14.0	66.0	27.0
45	42.9	15.2	58.2	35.5
50	39.0	17.9	56.9	45.8
55	37.2	20.3	57.6	54.6
60	35.0	23.5	58.5	67.2
平2	31.2	27.7	59.0	88.8
7	26.5	33.0	59.5	124.9
12	23.3	37.2	60.5	159.3
17	21.7	43.2	64.9	199.5
22	21.3	49.8	71.1	233.4
27	22.5	60.3	82.9	267.8

#### [用語の解説]

**年少人口指数**—生産年齢人口(15~64歳)100人が何人の年少人口(0~14歳)を扶養しているかを示す指数であり、人口の若年化の程度を知る指標である。

$$\text{年少人口指数} = \text{年少人口} \div \text{生産年齢人口} \times 100$$

**老年人口指数**—生産年齢人口100人に対し、社会的・経済的な面で負担となる老年人口が何人になるかを示している。人口の高齢化を知る指標である。

$$\text{老年人口指数} = \text{老年人口} \div \text{生産年齢人口} \times 100$$

**従属人口指数**—働き手である生産年齢人口100人が社会的・経済的な負担となっている年齢層である子供と老人(従属人口)をどれだけ養うかを表す指標である。

$$\text{従属人口指数} = (\text{年少人口} + \text{老年人口}) \div \text{生産年齢人口} \times 100$$

**老年化指数**—年少人口に対する老年人口の大きさを示し、人口の高齢化の程度を知る一つの指標で、生産年齢人口の多少による影響を除いているため、人口高齢化の程度をより端的に示す指標である。これが高いと、老年人口が多いことあるいは将来の人口を支える年少人口が少ないことを意味している。